第２回　農の風景育成ワークショップ
チーム別まとめ

令和４年６月 18 日　鹿骨小学校

こまつなくん（担い手）

★要点

- 担い手をどうやって増やしていくか。担い手は何ができるのか。
- 高校生が手伝える場面が少ないと感じる。手伝ってほしいことの情報が不足しているのではないか。情報提供が大事。
- 環境を守っていく人を集める、マッチングする、その土台として農業に触れる体験やボランティアができると良さそう。

☆テーマ：人手

- あらゆる場面で人手不足が問題になる。
- 農家さんの多くが家族経営をしている。
- 後継ぎがいない。
- 配送の人でも足りていない。
- 個々で市場に持って行っているが、組合で市場に持っていくことを考えられないか。
- 共同出荷は考えてみたい。
- 配送要員がいると良いのかもしれない。
- 学校、配送要員、農家の連携などを考えたい。
- アルバイトを雇ったり、アルバイト代を払ったりできるのかわからない。
- スマート農業システムの導入で人手不足が軽減されるのか。
- スマート農業には体制が必要。
- 高収益型育成施設の設置ができるか。補助金を活用できるのか。
- 東京フューチャーアグリシステム[4]栽培施設を取り入れるなど。

☆テーマ：農に触れ合う

- 身近に農業がないという問題がある。まずは農に触れてほしい。
- 体験することで、農業を身近に感じてほしい。
- ジャガイモやサツマイモは簡単に農に触れる機会になるだろう。
- 直売は多品目扱うと良いと思う。
- 楽しいことがないと手伝えないので、楽しく農に触れ合うことが大切。

☆テーマ：体験

- 夏休みを生かして体験できるようにする。
- 体験場所の提供ができないか。
- 体験といえば収穫が思い浮かぶ。
- 収穫祭という楽しい場・雰囲気があると良さそう。
- 高校教育でも農業を学習させてはどうか。
- 体験してもらった後の後片付けが大変なこともある。
- 後片付けも一緒に体験してもらうと良いのかも。
- 小松菜を食べる機会を増やしたい。

---

[4] 東京フューチャーアグリシステム（東京型統合環境制御生産システム）：限られた農地面積で収益性の高い農業経営を実現するため、農業分野の先進的技術と ICT を活用した新しい農業生産システム。（(公財）東京都農林水産振興財団 東京都農林総合研究センター ホームページより）

・ SNS を使って農家さんの仕事内容を投稿してはどうか。
・ 有名人を起用して情報を広める。

☆テーマ：土台作り

・ 対価が発生する労働力ではない場合、プラスアルファの動機づけが必要。
・ 簡単なところから自分たちでおこなってみたい。
・ 手伝える場所や事柄の情報が不足している。農家さんからの情報提供があると良い。
・ 担い手としての農福連携も考えたい。
・ 化学肥料から有機農法への移行。
・ 落ち葉を堆肥化して活用すると、自然循環サイクルにもなる。
・ 連携していくことが大事なので、それぞれにマッチングシステムがあると良い。システムの構築。

★ファシリテータのコメント

■keyword：農にふれる＝土台。情報。体験。

・ 担い手づくりのマッチングの必要性もさることながら、体験するという土台作りの大切さを高校生が実感として持っている。
・ 農に触れる機会がないと選択肢としての農がなくなる。長い目で見て体験と情報が必要と考えているところが良い。

ばれいしょくん（担い手）

★要点

・ 目的を共有し、どうしたらボランティアが来てくれるか・来やすいかを話し合った。

☆目的

- 広く知ってもらう。
- 興味を持ってもらう。

☆手段は SNS

- 農業を知ってもらうのにも、ボランティアを募集するのにも、SNS が良い。
- ボランティアの内容の動画を作る。
- 募集の時点で仕事の内容を明確にする。
- 誰にでもできることなのか、専門知識がいるのかなども明確に示しておく。
- SNS に上げるという手伝いもあると助かる。
- リアルタイムで発信する必要がある。

☆ボランティア

- 手伝ってもらいたいことが様々ある。
- 収穫のボランティア。収穫体験と兼ねる。
- 運搬のボランティア。早く届ける必要があり、運ぶのにも時間がかかるので、運搬のボランティアもあると助かる。
- ボランティアのハードルを下げられると良い。
- 地域ごとのホームページでボランティア募集をする。
- コミュニケーションをとる機会を作る。

☆求人

- 就農希望者が検索できるようなものがあると良い。
- SNS を使用してアルバイトを募集できないか。
- 担い手とのマッチングが必要になる。

☆農家さんとボランティアなどの調整

- 連携や調整が大変。
- 農家さんがボランティアを募集するための仲介人がいると良い。
- コーディネーターがいると良い。
- 飲食店への企画を含めた営業の人もいると良い。

☆ホームページ、広報

- 農業の法人化はどうか。
- 個人農家では将来的に存続が難しくなってくるだろう。広い意味で人を入れる・増やすことを考える必要がある。
- 人手が足りないところを知らせる、募集する。見た人が参加しやすいようにする。
- 求人募集用のホームページを作る。
- 地域の農家を集めたサイトを作って閲覧できるようにする。

★ファシリテータのコメント

■keyword：分業ボランティア。SNS。

・「農家さんの仕事」という漠然としてものではなく、細かく言うと、収穫、運搬、梱包、情報発信などある。

・各作業の詳細を決め、作業ごとに、また季節や時期ごとに、ボランティアや担い手を募集するという視点が良い。

えだまめちゃん（PR）

★要点

・ ３つの目標・柱を想定。小松菜のおいしさをわかってもらう（知ってもらう）SNS を使った PR、興味をひくネーミングについて考えた。

☆テーマ：小松菜のおいしさをわかってもらう

- 地域野菜を使った料理教室を開く。
- 料理教室に農家さんにも参加してもらう。
- 新鮮な小松菜料理の試食会。
- ハウス前に販売 POP を設置したら、そこでも小松菜のおいしさを PR。
- 小松菜が江戸川の特産品であることを知らない人がいる。知ってもらう。
- 江戸川の小松菜を全国へ展開。

☆テーマ：SNS 等

- SNS を通して小松菜のおいしさを伝える、広める。
- 例えば、インフルエンサーに小松菜について PR してもらう。
- 地域のお祭りなどで、小松菜を使ったものを出す。
- 鹿骨と小松菜のイメージが結びつくよう。鹿骨の歴史を知ってもらう。
- 鹿骨で農業が盛んなことをもっと PR する。
- TV で小松菜料理を PR できると良い。その際は江戸川区産であることを強調。
- 鹿骨地区のカルタを作ってはどうか。小松菜だけではなく、花卉も含めて鹿骨の魅力を知ってもらう。

☆テーマ：直売をもっとアピール！

- AKB のようなおもしろいキャッチコピーがあると親しみやすくなるのではないか。
- ネーミングを考えても良いだろう。
- 江戸川区内の各駅に小松菜のモニュメントを置く。
- 知られていないが、採れたての小松菜は格別においしい。もっと知ってほしい。
- 常時買える場所があると良い。
- 江戸川小松菜を常時買える場所を設置することで美味の訴求を。
- 直売マップを作って江戸川産の小松菜を買える場所を知らせる。わかりやすくすぐに買える状況を作る工夫が必要。
- 直売の情報をもっと細かく伝える。
- 畑で直売するとリピーターが多い。
- ハウスの前に販売 POP を掲示する。

★ファシリテータのコメント

■keyword：食べる。SNS＝ツール。ネーミング。ロゴ。グッズ。 ・ 小松菜のおいしさを食べて知ってもらうということをベースに考えている。 ・ 「食べてもらう」その入り口をどうしたら良いかということで、SNS や教室を開くこと、ネーミングなどツールを考えていくと良い。

はなちゃん（PR）

★要点

・ 今後の小松菜や農に夢や、多様性、楽しさを感じながら、自分たちも楽しめることについて話し合った。

☆テーマ：小松菜

・ 小松菜を日常的なもので広めていくために、小松菜をモデルにしたグッズを作る。
・ 小松菜グッズ：筆記用具、ペン、ふでばこ。
・ 日用品で小松菜を見かけることで、身近に感じ小松菜自体の良さを知ってもらう。

☆テーマ：体験

・ 家庭科の授業を農家さんと一緒に行う。
・ 知らないことでも「とりあえずチャレンジ」したい、してほしい。
・ 高校生が体験してみて、農業の大変さや食のすごさを感じたままに SNS で発信！
・ イベント的な野菜あてゲームをする。

☆テーマ：料理・交流

・ 今ある施設を農家さんと消費者の交流の場として活用する。
・ 今ある施設か新しい施設の中にキッチンを入れる。新しく作るならついでにキッチンを。
・ 農家さんの台所や区内の料理教室で区の野菜を活用した食堂を開く。
・ 食堂の隣で野菜や花の販売をする。
・ 販売の担い手として障がい者と一緒に取り組めると良い。
・ 外国の方とも料理を通じて交流。
・ ゆくゆくは畑が料理や交流の場となるように。区民館で交流できる畑を紹介し、地元で交流。
・ 畑の空いているスペースをもっと多目的利用できるようにする。例えば、囲碁や将棋、ゴルフなど。
・農家とお店で、小松菜などの農作物コラボをする。（小中学校では給食で小松菜メニューがある。）
・ 農家とお店のコラボ食品を作り、ポスター等で広める。ポスター作りは区が積極的に行ってくれると助かる。
・ カボチャの新芽を欲しがる人がいる。そういったことの情報共有や交流も考えたい。
・ 農家によるフードドライブ[2]などの社会貢献も。

☆テーマ：SNS

・ 興味を持ってもらうために SNS 等を活用する。
・ SNS で農業のすばらしさを広めていく。
・ SNS で栽培方法やそのおもしろさを伝える。
・ 農家や花緑の風景をレポートした SNS も良さそう。
・ 日本語と英語の SNS 配信！より多くの人に見てもらえるように。
・ 「自宅を花卉で飾ろう週間」で盛り上げる。
・ youtube で広める。「行き先農家」やツーリング動画など。
・ 販売と一緒により知ってもらうための工夫も必要。レシピ付きパンフレットを作成するなど。

---

[2] フードドライブ：家庭で使い切れない未使用の食品を持ち寄り、まとめてフードバック団体や地域の福祉施設、子ども食堂などに寄贈する活動。

・ SNS には高校生の力が必要。

☆テーマ：夢

・ 自分たちも楽しめるよう夢のある話もしていこう。
・ 畑＝非常食になりえる。
・ 関係イベントで災害時に身近な農地より食べ物が提供されるメリットを伝える。
・ ソーラーボート[3]は災害時にも使える。
・ PR ステージとして新中川のボートはどうだろうか。
・ 公園に農地ステージを作るのも良さそう。区内には 400 以上の公園があるのでこれをステージにできると PR の場になる。
・ 新川や新中川で水上マーケットの開催。（タイのプーケットのような。）

★ファシリテータのコメント

■keyword：食べる→買える場所、教育・料理教室、紹介（レシピ）。楽しく。水上マーケット、宇宙へ。

・ 楽しく知ってもらう、楽しく仕掛けながら技術開発や魅力発信ができることを考えていて、どんどん夢が広がっていくのが良いと思う。

[3] ソーラーボート：ソーラーパネルと蓄電池を使用して太陽光を電力に変換し、ボートに電力を供給する。

あさがおさん（食育）

★要点

・ 幼少期からの食育・体験が将来の担い手にもつながっていくのではないかと考えた。 ・ 子どもから大人まで、「作る→育てる→食べる」を楽しんでおこなう！

☆テーマ：幼児期の農業体験

- 子どものうちから土に親しむことが大切。最近では「土は汚いもの」と敬遠する親子がいるが、土に触れると喜ぶ子どもは少なくない。
- 子どもにとって「体験」は大事。
- 収穫体験を積極的に行えるようにしたい。
- 未就学児向けの収穫体験も面白そう。例えば、保育園や幼稚園の親子を対象に行うなど。
- 収穫体験だけはなく、育てることでより親しめる。
- 家で行う家庭菜園も良い。土に触れる機会は多いほうが良い。
- 子どもたちと野菜作りをし、収穫した野菜を、たとえば子ども食堂で一緒に料理すると食育効果が高そう。
- 育てて収穫して食べることで野菜嫌いをなくせると良い。
- 野菜を買って料理することも良い。
- 幼少期の体験が将来、ボランティアをしたり、担い手になったりにつながると良い。

☆テーマ：学校との連携

- 教育現場で土と触れ合うことが、家庭での園芸活動につながると良い。
- 小中学校との協力で農業や食への関心を高めたい。
- 農業と学校をつなぐ活動ができると良い。
- 地産地消。江戸川産の野菜をおいしく食べてもらいたい。
- 学校給食で地産地消への取り組みもみられる。給食レシピの交換をしたいがコネクションがない。
- 学生さんに新しいレシピの開発をお願いして、例えば学園祭などで発表の場があると良さそう。
- 農業体験学習で来た子どもたちが、ハウスの中の道具や機械を見て、どうやって使うか知らないことがある。
- 地産地消、花のみちづくり、子どもへの食育、福祉の場で農業など、考えたいテーマはいろいろある。

☆テーマ：将来の担い手を育てる

- 農業体験をしたい人とできる場所をつなぐ必要がある。
- 農業ボランティアといっても、草むしり程度のことしかできない（やらせない）こともあるようだ。
- 講師付き体験農園を充実させたい。ボランティアの活用を考えたい。
- 土地がないと農家になれない一方で、農家の後継者不足もある。ここをつなぐ必要がある。
- 現在の農業は制度の厳しい面もある。生産緑地の制度をしっかりと説明する必要がある。
- ヴィーガン[1]向けの減農薬野菜の普及も良そう。
- インド野菜（メティ）を使った料理教室で（外国人との）コミュニケーションの場としても考え

[1] ヴィーガン：完全菜食主義。

られる。

★ファシリテータのコメント

■keyword：幼児期から食育。つくる→育てる→食べる。

・ アクションの中には即時性を求めるものと 20-30 年後のための土台を作るものとあるが、将来を見据えて土台を作ることが大事だと思った。

・ 区の制度を使って取り組むので、何十年と時間をかけて、しっかり根付いていくようなことを考えられると良いと思う。

ぺろんちゃん（食育）

★要点

- 誰をターゲットにするか…大人、若者、子どもの中で、「子どもに食べさせる大人」をターゲットにしたいと思った。
- 頭（知識）と体（体験）の両方の食育を考えたい。
- 知ってもらう、体験してもらうことをまちの中で行えると良い。

注）以下の見出しは、本資料整理時に項目出しを行った。

☆食育とは（この班は見出しがなかったので総合環境計画がまとまりを作成）

- 「いただきます」を考えることだと思う。
- 野菜を食べることへの興味や関心を高めるために、まずは知ることから。

☆どんな食育があるか

- 栄養素を知るとその野菜の作用がわかる。
- 収穫体験でよく行うのはジャガイモ掘りや枝豆収穫。
- 自分たちの手で野菜を育て、それを料理して食べるという一連の流れを体験する。

☆農業について知ってもらいたいこと・知りたいこと

- 流通事情が知られていない。
- 不揃いな野菜は処分されるが、処分されていることを知らない。規格外でもおいしい。フードロスを削減したい。

☆ターゲットを考える

- 体験農業などで大人が「やってくれてありがとう」「やってくれるから参加する」といった受動的な姿勢を見かける。大人の意識を変えたい。
- 学校での教育だけでは難しい。保護者が子どもに教えられるようになると良い。
- 心身障がい者に働く場としての農業を提供できると良い。

☆どんなことをしてみたいか（体験型）

- 土に触れることが大事。
- 自分で育てたものを食べる。
- 区民農園を使いたい。
- 本物の野菜を学校に提供。

☆どんなことをしてみたいか（広報を兼ねた体験型）

- 畑見学会。
- 畑で BBQ。
- 親子ふれあい農園。
- 野菜食べ放題。

☆農業についてもっと知ってもらうために一緒に考えたり PR したりする場を

- 「教育」じゃなくもっと興味をひくようなことも考えたい。発信することも大事。（能動的に知りたくなるようなしかけ）
- 野菜を使った料理で子どもの野菜嫌いを克服させる。
- 小松菜など旬の野菜を使った料理を増やす。例えば、小松菜でグリーンカレーを作ると野菜をたくさん食べられそう。
- 給食で小松菜メニューを提供する。

・ 小松菜のレシピ集を出す。学校給食レシピが栄養士さんの財産でもあり、公開したがらない雰囲気があるが、レシピを公開して一緒に取り組みたい。（非常勤の栄養士は決められたメニューの中から選択するので、その点でも正規の栄養士がメニューを公開することは大事。）
・ キャッチーな言葉で PR。学校で標語を募集してみる。
・ 地元農産物をアピールするラッピングカーを走らせる。
・ 野菜の旬を知らせるポップを街路樹につける。
・ SNS で地元野菜などをアピール。いかにバズらせるか工夫が必要。
・ 生産者や栽培過程、農薬残差率を開示する。これにより食べるときの気持ちが変わると思う。
・ QR コードで情報に触れやすくする。（レシピ、生産者、栽培過程、農薬残差など情報は様々）
・ スィーツにアレンジ。スターバックスでアレンジスィーツや小松菜スムージー。
・ 道の駅でアピール。
・ 「こういう野菜をつくってほしい」という声も聞きたい。

★ファシリテータのコメント

■keyword：ターゲットは大人。知識と体験。まちの中で体験。
・ 子どもに食べさせる大人にも知識や体験を促すことが大切。
・ 先ほどの班と連携して、誰に情報を入れていくか、ターゲットを検討していくと、いろいろなパターンが出てきて良いと思う。
・ 食育を特別な場所で行うだけじゃなく、まちの中に落とし込んでいく、日常の中で知識や体験を得られるのは良いと思う。

全体のまとめ（ファシリテータ）

【今後のアイディア出しのポイント】

- 食育班：1つの班は幼児期にどういう体験をさせるか、もう1つの班は対象の年齢にこだわらずにまちの中で知識や体験を得られることを考えると良いだろう。
- PR班：楽しく食べるということがポイントになるだろう。ツールは誰に知ってもらいたいかで変わってくるので SNS、イベントなど、どういうツールが良いかを考えると良い。そのときの方向性は情報発信とネーミング、実際に買える・体験できる・食べる場所という2つかと思う。
- 担い手班：将来的の担い手をつくる土台作り、そのための体験の機会を作ることや情報発信が大事。分業で面白く農業に関われるという見せ方を考えると良い。

【今後のアイディア出しの班分け】

① 幼児期の食育
② 大人への食育（日常的、まちなか）
③ PRの場（体験、料理教室）
④ PRの方法と内容（SNS、ネーミング、買い物場所）
⑤ （担い手）分業
⑥ 将来の担い手になれる高校生への情報提供や体験の仕掛け